



2019年 年頭にあって

日本勤労者協議会連合会 会長 宇津井 賢一

新年おめでとうございます。

昨年は自然災害が相次ぎました。7月の西日本豪雨災害では220人以上の方が犠牲になりました。夏には猛暑で138人の方が亡くなりました。9月の台風21号では西日本で5,000世帯の家屋に被害が及びましたし、北海道地震によっても甚大な被害がありました。被災した皆様に心からのお見舞いを申し上げます。

一方、私たちの生活を見た時に安倍政権による人災が広がっています。

首相自らの関与が疑われる森友・加計問題は、国民の誰もが不信感を払拭できないまま議論は棚上げされています。通常国会での「改正出入国管理法」議論を封じての強行採決でもみられるように、国会の空疎な現状は、国民の政治不信に拍車をかけています。

デフレは脱却したと胸を張りますが、その結果は物価が上がり、低所得者の苦しみは増えています。社会保障費は抑制され、更に来年には逆進性の強い消費税が上げられます。年金生活者やサラリーマンの収入は大きく増えることはありませんし、目減りする実態もあります。しかし累進課税率と相続税率、法人税は下げられています。企業や富裕層のための政治が進められているのです。

また、安全保障関連法を強行採決し、合わせて毎年続く防衛予算増大の現状を見れば、戦争のできる国づくりに向かい、首相在任中に憲法改正をやるという意志の現われと言えます。安倍政権が国民を向いているのか米国を向いているのか、答えは明らかです。

本年は参議院選挙があります。野党が細分化している今、その力を結集することは必要です。民主国家での議員数はその国の向かう方向を決めます。安倍一強政治に終始符を打つために、政治を国民の手に取り戻すために、私たち勤労協は全国の仲間と共にがんばります。

今年是全国総会の開催年でもあります。中四国ブロックのみなさんが香川県連を中心に総会の準備にご努力されていることに、全国の仲間を代表して感謝申し上げます。この総会で参議院選挙や統一自治体選挙での成果を確認しあえるように、全力でがんばりましょう。



ブロックの動き・県連の動き

■ 福島市勤労協

護憲反安保福島市民連合2018年度総会・講演会

12月4日(火)「ラコパ福島」において護憲市民連合年度総会が開催され、関係団体等から85名が参加しました。総会では年度方針に対する論議の上で、安倍政権の改憲策動や来年の参院選が護憲運動にとって大変重要な意味を持つことを確認しあい、市議選・県議選を含め全体で精いっぱい闘う意思統一がはかられました。とりわけ護憲の見方を増やすことが重要な情勢にあって「市民に訴え市民を巻き込む運動が必要であること」について再確認しあい、みんなで努力していくことを誓い合いました。



引き続き記念講演は「憲法改悪と日本の軍事政策について」をテーマに憲法をいかに呼びかけ人代表の鎌倉孝夫さん(東日本国際大学・埼玉大学名誉教授)より問題提起を受けました。9条改悪を最終目標とした安倍政権の外堀づくり(戦争できる国作り既成事実積み上げ)が軍産学複合体形成とともに、大きなものは強行採決等の強引なやり方で小さなものは秘密裡に進められていることが明らかにされました。

(福島市連だより 第4号より)

■ 三豊市勤労協

画期的な三豊市ゴミ処理工場を見学

勤労協研修活動として昨年11月15日(木)14時より幹事5人が山本町神田にある、三豊市ゴミ処理委託会社・株式会社エコマスターを見学しました。

今回の参加者のうち数名は7月に実施された三豊市主催の見学会にも参加し少しは知識もあるなか説明会では質問もするなど研修活動の成果が上がりました。

このゴミ処理システムの画期的な取り組みが持続的・継続的に実施され将来にわたって成功すれば素晴らしいものです。ゴミを焼却せずにバイオ(微生物)での発酵をベースとした処理システムですから今日の地球温暖化防止にも寄与できますし、ゴミを資源として活用もできます。いいことづくめです。



懐疑的にこのシステムを見ていた私たちも運用開始の17年4月より今日も順調なことに少しは安

心しました。このゴミ処理システムの継続的な活用に大いに期待感を持ちました。

(写真：エコマスターのゴミ処理工場の様子)

カーブミラーをピカピカに



昨年12月2日(日)毎年恒例のカーブミラー清掃をしました。例年は厳しい寒さの中での大変な作業でしたが今回はぼかぼか陽気の中での作業となりました。

全員10人が軽トラ4台に分乗し豊中地区を中心に251本のカーブミラーを磨きました。主要道や新たに設置されたミラーは清掃しなくていいものが増えてきましたがまだまだ清掃の必要なミラーが多数派です。

不良個所をチェックし当該の自治会長より市役所へ修理依頼の要請を今回もしました。毎年少しずつ改善され地域住民の方々からも歓迎されているこの活動の継続が求められます。

(三豊市勤労協ニュースNO58より)

■ 熊本地区勤労協

「ペタンもちつき大会」地味だけど15年間やっています

熊本地区勤労協の活動といっても様々です。中には地味だけどこんな活動も・・・

18年の12月23日。熊本市の西郊「明るい西部を創ろう会」のもちつき大会です。事務協区長の所有する田んぼで収穫したもち米30キロを蒸して石臼でもちつきします。会員の男性2人で杵を持ち交互にペタン、ペタン。



つきあがったもちは会員女性や子どもたちで丸くコネコネ。おいしい杵つきもちの出来上がりです。

用意のあんこで「あんころもち」や、正月飾りの「鏡もち」、それにお土産用のもち10個と至れり尽くせり。懐かしくホンワリした1日でした。



「憲法改正反対とセーラー服」熊本地区街頭署名の一コマ



高校生平和大使の言葉じゃないけど、私たち勤労協仲間の持つ力も微々たるもの。まさに「微力だけど無力じゃない」を実感しました。毎月3回取り組まれている熊本市繁華街での（3000万全国統一署名）活動には常時参加しています。

いつもどおり道行く人たちに右に左にと頭を下げ「署名に協力をお願いします」と訴えていると、あることに気がつきました。協力してくれるのは、圧倒的にセーラー服の女子高生が多いんです。声かけしなくても寄ってきてくれたり、とにかく反応が良い。

男子高生はボチボチ。10人に1人くらい。あとは50代以上と思われる人たちが協力してくれます。反応が鈍いのは20代から30,40代。つまり中年の部類が厳しい。

この分布って、全国的なものなんじゃないかな。関心が出てきました。
(九州勤労協 矢野俊雄)



お金のことで悩んだ時も
親身になって支えてくれる。
けっこう、いいよね。
だから、私の、メインBANK。

けっこう使える。
ろうきん

あなたと
わかちあう
次の一歩

ろうきん
アンバサダー
高梨 藍

2018年4月11日

ZENROSAI NEWS

たすけあいの心から生まれた
多彩な共済で安心の未来を。

全労済
公式キャラクター
レモンくん

一人より二人、二人より三人と広がったたすけあいの輪。
確かな今日と、健やかな未来を守りつづけて、
全労済は創立60周年を迎えました。
常に時代にあった保障のカタチを提供していくことで、
これからも、支えあう安心をさらに大きく広げていきます。

おかげさまで60周年

全労済の住まいる共済	火災共済・自然災害共済	こくみん共済	総合医療共済
せいゆい共済	マイカー共済	自賠責共済	団体生命共済
交通災害共済	新セット移行共済		

全労済は、営利を目的としない保障の生協として
共済事業を営み、組合員の皆さまの安心とゆとり
ある暮らしをめざしています。出資金をお支払い
いただいで組合員になれば、各種共済をご利用
いただけます。

保障のことなら
全労済

全労済共済生活国際連合連合会